

天気予報の無かった時代、大雨や旱魃^{かんぱつ}は防ぎようのない天災そのものでした。
今回は遠賀川の水害の歴史を見てみましょう。

文化 11 年 8 月 9 日	家屋崩壊 30,000 軒 死者 358 人
明治 22 年 7 月 4 日	家屋流失倒壊 127 軒 死者 11 名
明治 38 年 7 月 25 日	家屋流失倒壊 163 軒 死者 12 名
昭和 28 年 6 月 25 日	家屋流失倒壊 953 軒 死者 20 名



★洪水から村を守った瓜生長作

安政 6 年（1859） 感田村で大雨のために取水口の水門が壊れかけました。木屋瀬の瓜生長作は、村人と共に激流の中で補強作業を行いました。しかし作業が終わった矢先、力尽きて洪水に流され生涯を閉じました。

★遠賀郡と鞍手郡の水争い

嘉永 6 年（1853） 5 月 23 日から 70 日間日照りが続き、遠賀川の水を巡って争いがおきました。木屋瀬の下流に土手を作って取水していた遠賀郡勢と、後から木屋瀬上流に仮土手を作った鞍手郡勢とのにらみ合いが続く中、8 月 2 日に待望の雨が降り、水争いは無くなりました。

★雨乞い行事

雨が降るかどうかは、神様頼みです。直方藩時代は、何度か多賀神社に植木役者の踊りを奉納して雨乞祈禱が行われていました。翌日になると雨が降ったという記録もあります。
萱を刈り集め、福智山や尺岳山頂で火を焚く千把焼も行われていました。



『遠賀川ものがたり』N517 ち
『遠賀川 もっと知りたい遠賀川』N517 ち
『直方歴史ものがたり』N219 ノ

直方あの頃

昭和 63 年～平成 2 年

連日、天皇の退位に関する報道がありますが、天皇陛下が即位した 1990 年頃、直方市では、どんな出来事があったのでしょうか。また、この年は、どんな年だったのでしょうか。

昭和 63 年(1988 年)

6 月 直鞍急患センター開設 10 周年
この年、ヒマワリの花柄が流行

平成元年(1989 年)

3 月 新入駅開業
この年、消費税が 3%になる

平成 2 年(1990 年)

8 月 直方市役所 新庁舎完成
この年、「おどるポンポコリン」がレコード大賞に



郷土の人々

岡森堰を築いた

わたなべぜんきち かとうじんすけ
渡辺善吉・加藤仁助



渡辺善吉は享保9年(1724)に生まれ、感田村の渡辺家の養子となり、人柄を認められ大庄屋となりました。当時下境、頓野、感田など6ヶ村は、遠賀川流域にありながら度々旱魃に見舞われていました。善吉はこれを憂い、藩に願い出て、明和7年(1770)、上境村の岡森川に仮土手を築き、明和9年(1772)には本井手の着工にかかりました。杭を立て石を並べ、6年の歳月をかけて、長さ約90メートルの堰を作り、溝を掘って下流の村々に水を分配しました。これによって下流6ヶ村は多くの収穫が得られるようになりました。

加藤仁助は、寛政5年(1793)に上境村に生まれ、天保10年(1839)大庄屋になりました。下流の村々にとってはありがたい岡森堰ですが、せき止められた水によって上流の小倉藩領の村々が水害に見舞われる、川船の通行の妨げとなるなど多くの問題がおこり、福岡藩と小倉藩の関係も悪くなりました。仁助は何度も小倉藩へ出向き役人と交渉を重ね、船通しを設けること、大雨の時に水を流す番人を置くこと、上流の村々に補償として仕向米270俵しむけまいを渡すことで解決しました。また年月が経つうちに堰が傷み取水量が減ってきたため、天保14年(1843)に大改修工事を行いました。直方市立図書館が保管している加藤大庄屋文書には、多くの岡森堰関係の古文書が残されています。当時の労苦がしのばれる資料です。



『直方碑ものがたり』N219ノ
『直方市史上巻』N219ノ
『遠賀川ものがたり』N517チ

はじめの一步 ~郷土資料の紹介~

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっといただくきっかけになればと思っています。

筑豊地区の山の様々な登山ルートを地図で調べたり、実際に登ったりしている飯塚六四会様から、筑豊100山のガイド本を寄贈していただきました。

『筑豊100山パーフェクトガイド 田川編・上巻』

『筑豊100山パーフェクトガイド 嘉飯山・中巻』

『筑豊100山パーフェクトガイド 直鞍編・下巻』

榎 隆成・榎 数子：著／飯塚六四会／N219チ

直方市立図書館

直方市山部 301-1 ユメニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902

<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>